

交付運用報告書 2023年2月期（2022年3月1日～2023年2月28日）

i シェアーズ 米国国債 20年超 ETF
iShares 20+ Year Treasury Bond ETF

米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託
米国デラウェア籍法定トラスト

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、i シェアーズ 米国国債 20年超 ETF（以下「ファンド」といいます。）の受益証券は、このたび、2023年2月期の決算を行いました。ファンドの投資目的は、20年以上の残存期間を有する米国国債により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年2月末日

1口当たり純資産価格（基準価格）	101.52 米ドル
純資産総額	30,364,940,982 米ドル
2023年2月期（2022年3月1日～2023年2月28日）	
トータルリターン	-25.64 %
1口当たり分配金額	2.733684 米ドル

（注）1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、取次証券会社までお問い合わせください。

<その他記載事項>

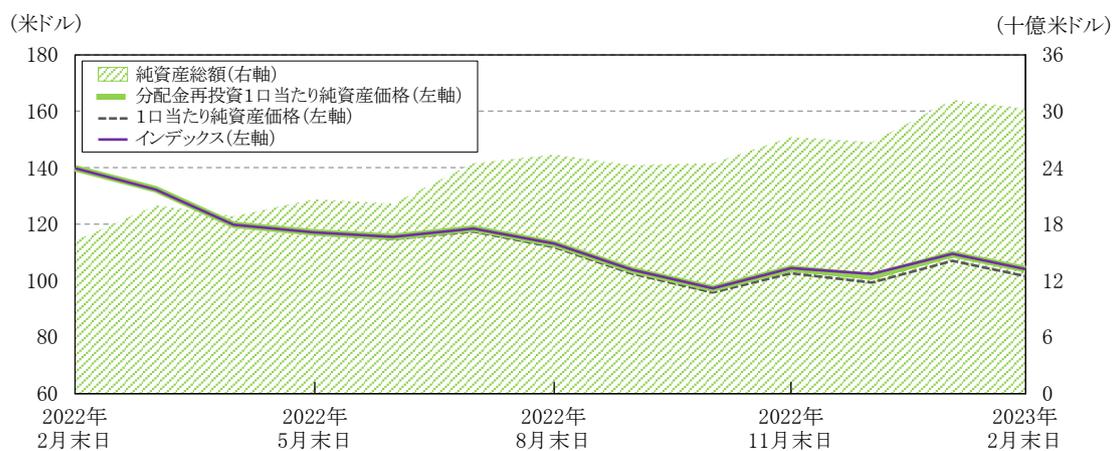
交付運用報告書および運用報告書（全体版）はブラックロック・ジャパン株式会社のウェブサイト（<https://www.blackrock.com/jp/>）の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

トラスト：

i シェアーズ・トラスト

《運用経過》

当期の1口当たり純資産価格等の推移について



2022年2月末日現在の1口当たり純資産価格：139.87 米ドル

2023年2月末日現在の1口当たり純資産価格：101.52 米ドル

(1口当たり分配金額：2.733684 米ドル)

トータルリターン：-25.64 %

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注3) ファンドのインデックスは、ICE米国国債20年超指数（以下「インデックス」といいます。）です。

(注4) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2022年2月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注5) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、各投資者の購入状況などにより課税条件が異なるため、分配金に対する税金を考慮していません。そのため、最終的な税引後の結果を示すものではありません。

1 口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて

米国国債市場概観

2023年2月28日に終了した12ヵ月間（以下「当年度」といいます。）におけるICEコア米国国債指数のリターンはマイナス10.08%であり、米国課税債パフォーマンスの広範な指標であるブルームバーグ 米国総合債券指数のリターンであるマイナス9.72%を下回りました。

債券市場のリターンが低調であった背景には、インフレ率の上昇および短期金利の上昇があります。2021年の終わりから上昇し始めた消費者物価上昇率は、2022年初頭のロシアのウクライナ侵攻をきっかけにさらに上昇し、3月から9月の各月では前年比8%以上の上昇となりました。2022年の終わりにはインフレが落ち着く兆しが見られたものの、当年度最後の4ヵ月間は6.4%から7.5%の範囲で推移するなど、米国連邦準備制度（以下「Fed」といいます。）の目標値である2%を大きく上回りました。

Fedは、インフレ率の上昇に対応するため、景気刺激策であった量的緩和プログラムを打ち切り、金利を積極的に引き上げました。Fedは、12ヵ月間で8回の短期金利引き上げを行い、ベンチマークとなるフェド・ファンド金利を0.0%から0.25%の範囲から4.5%から4.75%の範囲に引き上げました。これは、このような短期間での利上げとしては過去数十年で最速のものでした。さらにFedの広報は、中央銀行が引き続き強いインフレ対策を講じる意向であると繰り返し表明しました。このアプローチは、制限緩和政策へ軸足を移すのではないかとの断続的に表れた期待を打ち消し、投資家による想定「最終利率」予想、すなわちFedが利上げを停止する水準の予想を引き上げることとなりました。経済が引き続き好調であることに加え、労働市場の逼迫が続いていることから、金利が「長期間上昇し続ける」との予想がさらに強まりました。

こうした状況は、米国国債市場にとって大きな逆風となりました。2年物債券の利回りは、年間を通じて1.43%から4.82%に上昇（価格は下落）し、10年物債券の利回りは1.83%から3.92%に上昇しました。このような動向の結果、イールドカーブの反転（すなわち、短期金利が長期金利を上回る度合い）は1981年以来の高水準となりました。特に、2022年に国債市場は2暦年連続でのマイナスリターンを記録しました。これは、1958年から59年に発生して以来のことです。

長期債券はトータルリターン・ベースで最も低いパフォーマンスとなり、中でも満期が10年以上の銘柄が最も大きな損失を記録しました。一方で、満期が0年から3年の銘柄は市場全体を上回りました。

1. 運用の経過

i シェアーズ 米国国債 20年超 ETF

2023年2月28日現在のファンド概要

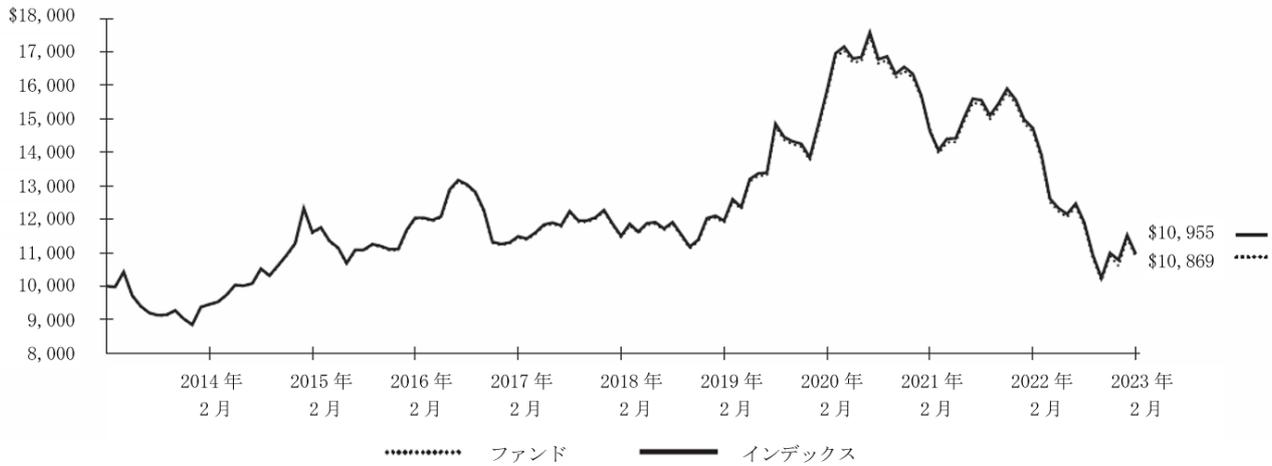
投資目的

ファンドは、インデックスに代表される、残存期間が20年超の米国国債で構成されるインデックスの運用成果の達成を目指しています。ファンドは、全体としてインデックスと同様の投資特性を有する、インデックスに含まれる代表的な構成銘柄を組入れています。代表的な構成銘柄の組入れにより、ファンドはインデックスに含まれる銘柄のすべてを保有する場合もあれば、しない場合もあります。

パフォーマンス

	年間平均トータルリターン			累積トータルリターン		
	1年	5年	10年	1年	5年	10年
ファンドのNAV	(25.64) %	(1.05) %	0.84%	(25.64) %	(5.12) %	8.69%
ファンドの市場	(25.50) %	(1.02) %	0.85%	(25.50) %	(5.01) %	8.78%
インデックス	(25.60) %	(0.96) %	0.92%	(25.60) %	(4.71) %	9.55%

10,000 米ドル投資の純資産価額の推移



2021年3月1日に、ファンドは、ICE米国国債20年超指数の午後4時の変動価格に追随することを開始しました。2021年3月1日以降のインデックスのデータは、ICE米国国債20年超指数の午後4時の変動価格のもので、2016年4月1日から2021年2月28日の過去のインデックスのデータは、ICE米国国債20年超指数の午後3時の変動価格のもので、2016年4月1日より前の過去のインデックス・データは、バークレイズ米国国債（20年超）指数のもので、

過去のパフォーマンスは、将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。運用パフォーマンスの結果は、ファンドの分配時あるいはファンド受益証券の償還時または売却時に受益証券保有者が支払う可能性のある税金の控除を反映していません。

費用例

実績値			5%の仮説リターンに基づく仮定値			
口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	費用比率 (年率)
2022年9月1日	2023年2月28日		2022年9月1日	2023年2月28日		
1,000.00米ドル	920.80米ドル	0.71米ドル	1,000.00米ドル	1,024.10米ドル	0.75米ドル	0.15%

^(a) 費用は、当期間中の口座の平均価額に、年率換算された費用比率および181/365（表示されている半年の期間を反映）を乗じたものに相当します。売買委託手数料および金融仲介業者へのその他の手数料など、上記の表や例には反映されないその他の手数料が支払われる場合があります。

ポートフォリオ情報

満期別内訳

満期	総投資比率 ^(a)
15年から20年	2.2%
20年から25年	32.5
25年から30年	65.3

ファンドの組入上位5銘柄

証券	総投資比率 ^(a)
米国中長期国債, 1.88%, 02/15/51	11.0%
米国中長期国債, 2.00%, 08/15/51	7.8
米国中長期国債, 1.63%, 11/15/50	6.9
米国中長期国債, 3.00%, 02/15/49	6.6
米国中長期国債, 3.00%, 08/15/48	6.1

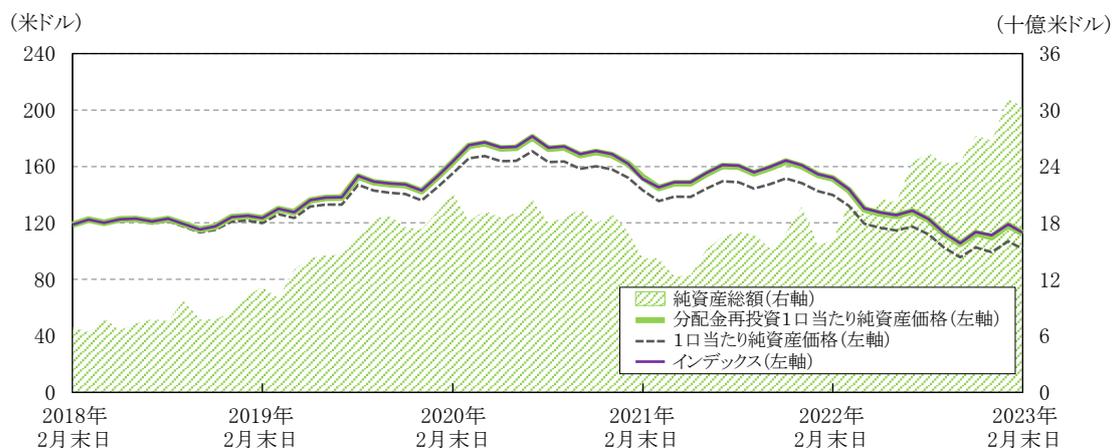
(a) マネー・マーケット・ファンドを除く。

費用の明細

項目	項目の概要	
投資顧問報酬	平均日次純資産総額の年率0.15%	ファンドに提供する投資顧問サービスの対価
その他の費用	純資産総額の0%	専門家報酬

(注) 平均日次純資産総額とは、ファンドの属する一定のファンドグループの純資産総額の日々平均残高の合計額を指し、投資顧問会社は上記の料率に従って計算される投資顧問報酬の合計額のうち、ファンドに係る割当額を受領します。

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について

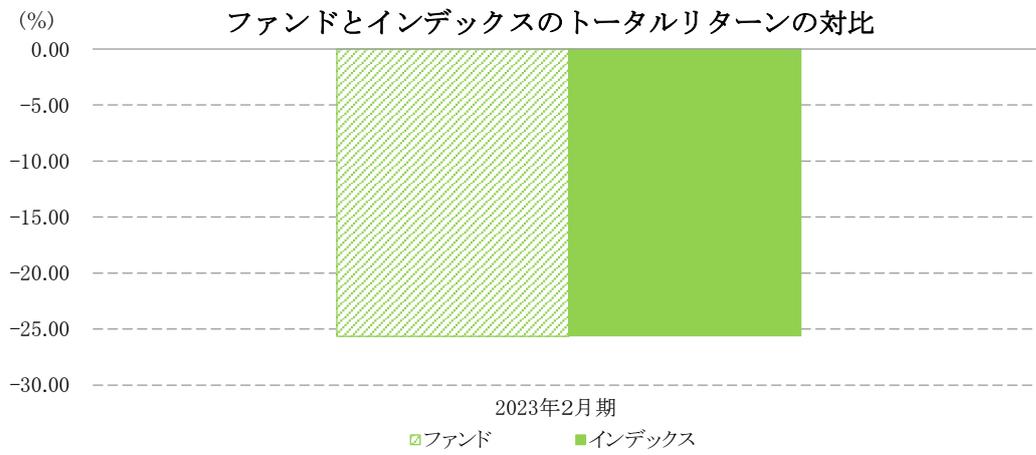


	2018年 2月末日	2019年 2月末日	2020年 2月末日	2021年 2月末日	2022年 2月末日	2023年 2月末日
1口当たり純資産価格 (米ドル)	118.70	119.95	155.13	143.12	139.87	101.52
1口当たり分配金額 (米ドル)	—	3.215411	3.040043	2.299587	2.238905	2.733684
ファンドのトータル リターン (%)	—	3.82	32.29	−6.43	−0.72	−25.64
インデックスのトータル リターン (%)	—	3.97	32.53	−7.65	0.65	−25.60
純資産総額 (千米ドル)	6,718,668	10,951,502	21,237,057	14,783,961	16,113,367	30,364,941

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2018年2月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。なお、インデックスのパフォーマンスは、2021年2月28日までは、午後3時の変動価格を反映しており、2021年3月1日以降は、午後4時の変動価格を反映しています。

インデックスとの差異について



分配金について

当期（2022年3月1日～2023年2月28日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。
 なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

（金額：米ドル）

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 ^(注2)
2022年3月1日	141.27	0.184723 (0.13%)	-0.28
2022年4月1日	132.19	0.201727 (0.15%)	-8.88
2022年5月2日	117.25	0.203130 (0.17%)	-14.74
2022年6月1日	116.16	0.207438 (0.18%)	-0.88
2022年7月1日	115.35	0.226939 (0.20%)	-0.59
2022年8月1日	119.86	0.213043 (0.18%)	4.72
2022年9月1日	109.50	0.236135 (0.22%)	-10.12
2022年10月3日	103.76	0.244114 (0.23%)	-5.50
2022年11月1日	96.69	0.235637 (0.24%)	-6.84
2022年12月1日	105.61	0.244243 (0.23%)	9.16
2022年12月15日	108.22	0.261059 (0.24%)	2.88
2023年2月1日	108.09	0.275496 (0.25%)	0.14

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率 (%) = $100 \times a / b$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 = $b - c$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2022年3月1日の直前の分配落日（2022年2月1日）における1口当たり純資産価格は、141.73米ドルでした。

《今後の運用方針》

インデックスのパフォーマンスと密接に連動した投資成果を提供することを目指し、ファンドの運用を行う予定です。

《お知らせ》

該当事項はありません。

《ファンドの概要》

ファンド形態	米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託 米国デラウェア籍法定トラスト
信託期間	無期限
運用方針	ファンドの投資目的は、20年超の残存期間を有する米国国債により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。
主要投資対象	ファンドは、少なくともその資産の80パーセント以上をインデックスの構成銘柄に投資し、さらに少なくともその資産の90パーセント以上をファンドによるインデックスの連動に資するとBlackRock Fund Advisorsが考える米国国債に投資します。
運用方法	<p>ファンドは、20年超の残存期間を有する米国財務省の公債での実績を測定するインデックスに連動する運用成果を追求します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの投資目的を達成するために、インデクシング・アプローチを使用します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの運用につき代表サンプリング戦略を使用します。代表サンプリングとは、全体としてインデックスの代表サンプルと類似する投資プロファイルを有する証券の代表サンプルに投資する指数戦略をいいます。</p>
投資制限	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投資を集中させること（すなわち、全資産の25パーセント以上を特定の産業または産業グループの株式に投資すること。）。但し、ファンドは、インデックスが特定の産業または産業グループに有価証券を集中させる程度とほぼ同程度に投資を集中させます。かかる制限の目的上、米国政府（その支分機関および系列機関を含みます。）の証券、米国政府証券の担保付き買戻契約および連邦または地方政府もしくはその政府当局の証券は、いかなる産業の構成員から発行されたものとして解釈されません。 2. 借入を行うこと。但し、（i）ファンドは、これを行わなければ、時機を失した証券の処分を要する買戻請求に対応するために、臨時または緊急目的（レバレッジ目的を除きます。）で銀行から借入を行うことができ、（ii）ファンドは、その投資方針と合致している限り、買戻契約、逆買戻契約、先送り取引、およびこれらと類似する他の投資戦略および技術を履行することができます。（i）および（ii）の取引を行う場合に限り、当該取引からファンドは総資産（借入額を含みます。）の33%パーセント以上を取得してはならないという制限が課されます。当該金額を超過する借入は、適用法に基づき縮減されます。 3. 優先的受益証券を発行すること。但し、米国1940年投資会社法（改正済）で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 4. 貸付を行うこと。但し、米国1940年投資会社法（改正済）で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。

	<p>5. 不動産、不動産抵当、商品、商品契約を売買すること。但し、かかる制限はファンドが先物契約および先物契約のオプションを取引すること（ファンドの投資目的および投資方針と合致している限り、為替オプションを含みます。）を禁止するものではありません。</p> <p>6. 他の者が発行した証券の引受業務に携わること。但し、ポートフォリオ証券の処分により、ファンドが、厳密には、米国1933年証券法（改正済）における引受人とみなされる場合を除きます。</p>
<p>分配方針</p>	<p>純投資収益からの分配金（もしあれば）は、最低でも毎年宣言され、ファンドから支払われます。証券の実現純収益（もしあれば）は、通常年に一回宣言され、支払われますが、トラストは、特定のファンドに対してより頻繁に分配を行うことができます。ファンドの登録投資会社としての地位を維持するため、または、分配されない収益に所得税もしくは消費税が賦課されることを回避するために必要であるとファンドがその合理的裁量により決定した場合、臨時分配金を宣言する権利を有します。</p>

《ファンドデータ》

組入資産の内容（2023年2月期末現在）

組入上位資産

（注）組入上位銘柄および組入銘柄数は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。組入銘柄の詳細は、運用報告書（全体版）の「IV. 投資有価証券の主な銘柄」を参照ください。

組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分

（注1）ファンドの組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。

（注2）ファンドの組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

純資産等

2023年2月期末	
1口当たり純資産価格	101.52 米ドル
純資産総額	30,364,940,982 米ドル
発行済口数	299,100,000 口

2023年2月期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
312,100,000	128,200,000	299,100,000

本報告書に記載の「1口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて」は、ファンドのアンニュアル・レポートの該当部分の翻訳であり、本報告書と原文（英文）との間に相違がある場合には、原文（英文）の内容に従うこととなります。なお、原文（英文）の記載のうち、ファンドに関係しない部分を省略する場合があります。